

公共社会学科案内2026

福岡県立大学 人間社会学部 公共社会学科



誰もがよりよい生を実現できるような 社会の仕組みを考え行動できる人材を育てる

今日、紛争、差別、格差、環境破壊など国内外の地域社会には課題が山積しています。地球上に住むひとりひとりが当事者としてこれらの課題に取り組むことが求められています。

公共社会学科は、誰もがよりよい生を実現できるような社会の仕組みを考える学科です。社会学をベースに、政治学、経済学、教育学、地理学、情報学など幅広い領域を地域社会と国際共生に焦点をあてながら学びます。

特に力を入れているのが社会科学的な手法を用いた課題解決型授業です。社会調査実習では、地域の課題を発掘し、課題が生じる構造を社会調査で明らかにし、解決策を提言するまでの過程を学生が主体的に担い、課題解決能力を身に付けます。また、少人数制の授業では、教員や学生同士の対話を通して考える力や相手を理解しわかりやすく伝える力を養います。

人間に対する興味・関心が旺盛な人、国内外の地域が抱えている課題や社会現象に関心を持っている人、あなたの「なぜ？」を公共社会学科での学びを通して社会を変える行動の一步へとつなげてみませんか？

公共社会学科地域社会コース代表 佐野 麻由子

目次

公共社会学科の学び	1
「公共」の扉へ	2
カリキュラム構成	3
地域社会ネットワーク領域	4
アジア国際共生領域	5
ゼミ&教員紹介	6
教職課程・教育実習	10
社会調査実習・国際交流プログラム・交換留学	12
キャリア支援プログラム	13
活躍する卒業生	14

Public Sociology



● 「公共」の扉へ

2022年度より高等学校公民科の新しい必修科目「公共」がスタートしました。その背景には、グローバル化や情報化により、現代社会には新たな課題がいくつも生み出され、私たちのくらしも先の見通しが立ちにくくなっていることがあります。そうした中では、私たち個々人が自立した主体として、他者と協働し、持続可能な社会づくりに参画すること——豊かな「公共」を育むことの重要性が高まっているのです。

本学科はこのような国レベルで認識されてきた問題意識を先取りし、社会学を中心に現代社会の諸課題にアプローチする様々なスキルを身につけ、自由な発想と深い他者理解をベースに、他者と協働し、より大胆に社会に働きかけられるアクターを育むことを目標にしてきました。本学科の卒業生のみなさんは、広く社会の各所で「公共人材」として活躍しています。

● 公共社会学がめざす教育

私たちが生きる現代社会では、生活条件も考え方も異なる人同士が、地域社会で、そして地球規模で、互いに支え合うことが求められています。そして現代は、知識・情報・技術が急速に更新され、それらが私たちのあらゆる活動領域において重要な意味をもつ社会でもあります。公共社会学は、このような社会背景のもと多様な個性をもつ人びとが共に生きていける、新しい公共社会のあり方を探求する学問です。

本学科では、地域社会や国際社会が抱える課題に対して、教員と学生と一緒に向き合い、協働し議論を重ねます。大学4年間の経験を通して、現代社会で活躍するにあたり役に立つ、幅広い知識と分析スキルを修得します。

● 教育の特徴

〈問題意識を育み課題解決力を高める〉

本学科の教育は、学生たちが現代社会課題に対する問題意識を高め、課題解決にあたり役に立つ実証研究のスキルを身につけることを重視しています。学生たちは課題解決をめざして人びとが協働する「地域社会」「国際共生」というフィールドに参画し、多方面に渡る経験を通して課題解決力を高めます。新しい公共社会を具体的、多角的に考えられるように、「**地域社会ネットワーク**」「**アジア国際共生**」という2つの履修領域を設けています(詳細は4頁)。

〈情報化社会に対応できる基礎能力を身につける〉

現代社会課題に、社会調査・情報処理の基礎能力を活用してアプローチする力を、実習や演習を通して身につけます。**本学科は2022年度より高等学校教諭一種免許状(情報)の教職課程を設置しました。**社会課題に向き合う経験と併せて、卒業後の様々な場面で役立つスキルを身につけます。

〈公共社会学が重視する4つのポイント〉

- 1 新たな公共性、地域社会、国際共生の視点を培う。
- 2 コミュニケーション能力、リサーチ能力、ITスキルを習得する。
- 3 社会のニーズを的確に把握する調査力、分析力をつける。
- 4 問題解決への企画・提案力や調整力の基礎を培う。



●カリキュラム構成

社会学と公共性をベースに、現代社会の諸課題を、ローカルに、グローバルに探求するカリキュラムを用意しています。あなた自身で学びをコーディネートできます。

<1年次> 全学共通科目を履修するとともに、社会学、社会調査、情報処理の基礎を学びます。

<2年次> 現代社会課題、地域社会ネットワーク、アジア国際共生の科目群から、各自の関心に沿った学習を組み立てていきます。1年次に学んだ社会調査・情報処理の能力をさらに伸ばすとともに、社会調査実習に取り組むことを通して実践力と応用力を養います。

【社会調査実習】 調査の企画から実施、分析、報告書の作成に至るまでを学生が主体となって行います。社会の動向が表しているものを見極める能力を身につけます(詳細は12頁)。

<3年次> より高度な専門科目を学びつつ、関心のある分野のゼミに入り、課題を設定し、原因を考察・分析する力を磨きます。

【公共社会学研究】 本学科には、社会学だけでなく政治学、経済学、教育学、地理学、情報学など幅広い専門領域のゼミ(演習)があります。少人数(原則6人以下)で文献を読んだり、グループや個人による研究を進めたり、ディスカッションを行ったりします(詳細は6頁)。

<4年次> 自身で研究課題を設定し、卒業論文を執筆します。1年次から身につけてきた知識やスキル、思考力の集大成です。教員の指導を受けながら、疑問を見出し、実態を把握し、検証・考察をへて結論を導き出す、一連の論じる力を身につけます。

●資格・キャリア支援

〈キャリア支援プログラム〉

学生一人ひとりが将来の目標を定め、その実現に向け自律的に進んでいけるよう、本学科では5つのキャリア支援プログラムを設けています(詳細は13頁)。

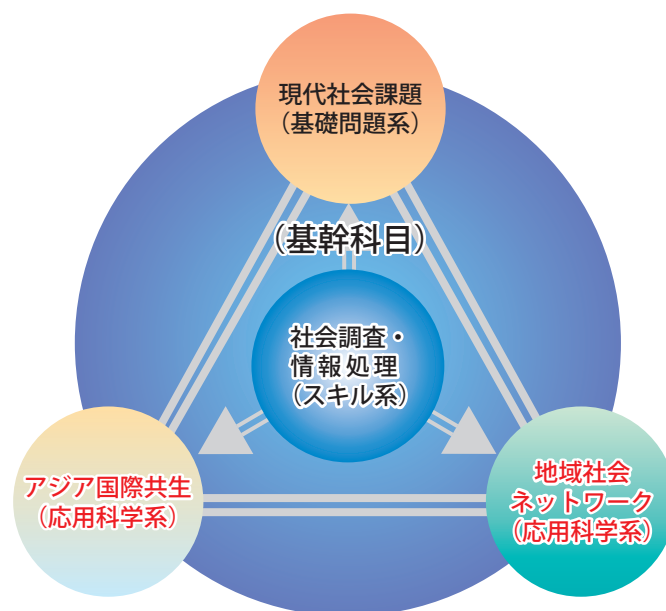
- (1) 社会調査士資格取得支援プログラム
- (2) 教職免許取得支援プログラム
- (3) 情報処理関係資格取得支援プログラム
- (4) 公務員受験支援プログラム
- (5) ビジネス・スキル修得支援プログラム

本プログラムは、大学での学びと卒業後の進路を有機的に結びつけることをねらいとしています。専門教育の各段階で、将来の進路形成について自分自身で考えられる機会を設けるように工夫しています。

ほかにも本学では、全学横断型教育プログラムによる就業力強化支援、キャリアサポートセンターによる就職活動相談など、幅広い進路支援を行っています。

〈取得できる資格・免許〉

- ◆ 社会調査士
- ◆ 中学校教諭一種免許(社会)
- ◆ 高等学校教諭一種免許(公民)
- ◆ 高等学校教諭一種免許(情報)
- ◆ 上級情報処理士
- ◆ 社会福祉主事任用資格



Think Globally, Act Locally!

地域社会ネットワーク領域

Q 地域社会ネットワーク領域が目指す教育は？

A 持続可能な地域社会の担い手の育成

人口減少と少子高齢化の進展、近隣関係の希薄化など、現代社会は大きな変化を経験し、地域社会においてはさまざまな生活課題が浮かび上がってきています。地域社会における多様な生活課題に対処し、持続可能な地域社会を構想していくためには、人々の生活に向き合い、地域住民、地域団体、ボランティア団体・NPO、企業、自治体などさまざまな人々、団体がつながりながら協働していくこと——公共を構想し築くことが大切です。多様な立場にある人々と協働し、持続可能な地域づくりを意欲的に推進していくことができる人材の育成を目指しています。

Q 地域社会の視点で何を学ぶか？

A 地域社会の仕組みや地域課題、課題解決過程を学びます

地域社会の構造や機能、現代日本の地方自治のしくみと動向、住民参加の地域づくりの現状と課題などを考える、充実したカリキュラムを設けています。それぞれの地域社会の中で人々はどのような生活を送り、そこにはどのような生活課題が見られ、それらの生活課題を解決するには地域住民、地域団体、ボランティア団体・NPO、企業、自治体はどのような役割を果たしていけばよいのか、社会学・政治学・地理学・経済学などの観点から学びます。

Q 「現地(フィールド)に出かける」とは？

A 地域課題について現場で調査しながら考えます

地域社会の現状についてウェブサイトや統計データ、文献資料で研究することはもちろん大切です。しかしそれだけでは、実態がわかったとは言えません。現地(フィールド)に出かけてその雰囲気を感じ、そこに住む人々と話し、地域社会の自慢や悩みに耳を傾けてみましょう。福岡県は旧産炭地からの転換を図る筑豊地域、福岡市と北九州市という異なる特性をもつ大都市、豊かな自然と農林水産業が盛んな筑後地域という、多彩な地域で構成され、アジアとの関係が深い県でもあります。多様なフィールドに出て学ぶことで、地域のさまざまな景観や暮らしに触れ、地域社会の奥深さを感じることができるでしょう。



社会調査実習



社会統計学Ⅰ



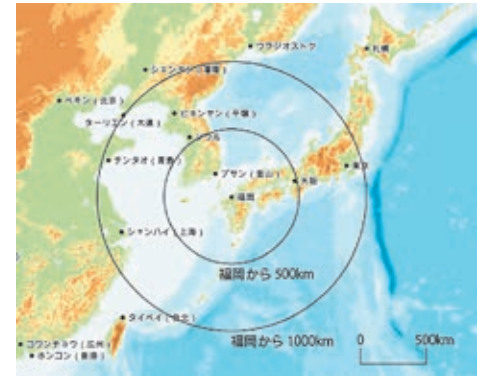
社会病理学

アジア国際共生領域

Q アジア国際共生領域が目指す教育は？

A 地域と国際社会をバランスよく結んで活躍できる人材の育成

外国人の受入れ拡大へと舵を切り、国内各地でも多文化共生を掲げた政策や窓口が設置され始めた日本。異なる文化や宗教、言語を持つ人々と、違いを認め合い、共存していける国際的知見を培いながら、地域でも国外でも、多様化が進む社会に対応できる、バランスのとれた人材が、ますます必要です。地域社会に軸足を置く本学科は、地域と国際を切り離さず、国際的な視野を持ちながら地域で活動できる人、地域の状況を理解しながら国際社会で活躍できる人材の育成を目指しています。



「地理院地図」より作成

Q 国際共生の視点で何を学ぶか？

A グローバル化の中で多様な人々と共に生きる社会について学びます

社会学と政治、経済、文化、歴史学などを、国際的な視点で横断的に結んで学びながら、共に生きる世界には何が必要かを考えます。政治学分野では、伝統的な国家間関係では捉えきれない、様々なアクターが関与する今のグローバル社会を「人間の安全保障」という新たな枠組みで見直します。経済学分野では、国家間の経済活動に関する理論・歴史・政策を広い視野で学びながら、アジア地域を中心とするビックイシューを考えます。社会学分野では、豊かな国が富む一方、貧しい国がますます貧しくなる理由や、異なる文化への寛容性が国や地域で違う背景にある制度的、文化的要因などを学びます。



Q 福岡の地で国際共生を学ぶ意義は？

A 国を超えて地域が結びあう多様な世界像を学べる点

世界と結ぶ独自のルートがある福岡には、国連ハビタットやジェットロ福岡、JICA九州など国際的な諸機関が拠点を置き、NGO活動も盛んです。福岡を代表する基幹産業（鉄鋼や環境分野）を中心に周辺諸国間の企業交流や人材交流も活発で、東アジア経済ブロックの中で重要な役割を果たしています。

福岡から中国最大の商業都市・上海までは545マイル、東アジアのハブ空港があるソウルまでは337マイル。東京(566マイル)や大阪(289マイル)と同距離にあるアジアの拠点と直接繋がる福岡に立脚すると、国を超えて、地域と地域が直接結びあう多様な世界像、その中で地域が果たす役割を考えることができます。



国際社会学A



都市社会学



多文化社会論

ゼミ&教員紹介

● 実社会で役立つ実践的な経験から学ぶ



岡本ゼミでは、国際的な視点に立ちながら、政治や文化、歴史に関わる社会学を学んでいます。学びのテーマはゼミ生の関心をもとに決定し、メンバー一人一人の興味・関心を大切にしながら、主体的な学びを重視しています。活動内容としては、関心のある時事問題についてのディスカッションや、フィールドワークに向けた話し合い・グループによる調査活動などを行っています。岡本ゼミには特に、日韓関係に関心をもつ学生が多く、実際に韓国との関係をテーマにしたフィールドワークを行う予定です。私は香川県出身で、離島の活性化や観光業に関心があります。これまでの活動の中では、他のメンバーの興味と関連させた「対馬における韓国人観光客の受け入れ体制」について、地域社会の視点から考察し、フィールドワークの案を立てました。

岡本先生は、元国連NGO職員で、中国留学やアメリカの大学での客員研究員など海外経験を豊富に積んでこられました。その経験をもとに、多角的な視点から事例や発展の内容など、ゼミ生一人一人に合わせた丁寧なアドバイスをさせていただきます。また、学生の興味に合わせた知識を深めるために学術書や参考資料なども紹介させていただきます。国際社会から地域社会に跨る多様性をテーマに考える学生が多く集まる岡本ゼミで自分の考えを深めてみませんか。

公共社会学研究Ⅰ (岡本ゼミ)
A.S.(長崎県)

● 国際比較の視点から社会について学ぶ



佐野ゼミでは、国際社会学を中心とした社会学の枠組みから、グローバル化によって引き起こされる世界規模の格差といった社会問題や地域社会の諸現象について学んでいます。3年前期は、ファスト・ファッションの弊害を描いた映画「トゥルーコスト」を視聴して

から、『ファッションで社会学する』という文献を講読しています。ゼミ生が文献を1章ずつ分担し、レジュメの作成や報告当日のディスカッションの司会進行を担い、文献に書かれた理論や概念の知識を広げるだけでなく、今日の社会についての洞察を深めています。

【ゼミ生の声】

- ・ファッションをきっかけに私たちが暮らす社会を見つめ直すことで、何気なく存在している社会の課題に気付くことができ、レジュメ作成やディスカッションを通して、さらにその章の内容への理解を深めて多くの気付きや発見を得ることができました。A.M.(長崎県)
- ・ゼミのみんなと意見を交わすことで、自分1人では気づけなかった新たな発見があり、学びが深まったと同時に、議論の進め方についても勉強になりました。M.N.(福岡県)
- ・ゼミのメンバーと意見を共有し議論することで、一つのテーマを深く理解することができるので、様々な視点から考える能力を成長させられていると思います。R.I.(福岡県)
- ・グループディスカッションを通して、ほかのゼミメンバーと自分の意見の共通点や相違点を共有することができました。S.R.(福岡県)

公共社会学研究Ⅰ (佐野ゼミ)



岡本 雅享

Masataka Okamoto

【専門】政治社会学・国際学・民族学

【略歴&研究内容】

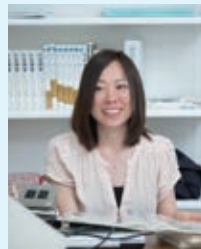
一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了(博士(社会学))。国際学修士(横浜市立大学国際文化研究科)。

学部生時代から日本と欧米のマイノリティ、移民政策を比較研究。大学卒業後、中国(北京師範学院、中央民族大学)に1年半留学し、少数民族二言語教育の調査研究を行う。帰国後、国連NGOに就職し、国連を中心とした人権

活動に従事。大学院進学を経て本学着任。サンフランシスコ州立大学民族学部(College of Ethnic Studies)に客員研究者として1年在籍。近年は日本型Nation Building & Ethnic Studiesとしての出雲学の構築を探究。明治学院大学国際平和研究所(PRIME)研究員。研究テーマは民族研究、多文化政策、国連人権活動など。

【主な業績】『マイノリティ・ライツ—国際規準と日本の課題』現代人文社(共著、2024年)、『越境する出雲学—浮かび上がるもうひとつの日本』筑摩選書(2022年)、『千家尊福と出雲信仰』ちくま新書(2019年)、『出雲を原郷とする人たち』藤原書店(2016年)、『民族の創出』岩波書店(2014年)、『中国の少数民族教育と言語政策』社会評論社(2008年)、『日本の民族差別』明石書店(監修・編著、2005年)など

【担当科目】政治学、国際政治学、多文化社会論、東アジア関係史など



佐野 麻由子

Mayuko Sano

【専門】社会学・開発援助と社会学・ネパール地域研究

【略歴&研究内容】

立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了(博士(社会学))。立教大学社会学部助教を経て2012年10月に本学着任。

博士前期課程在籍中に立教大学派遣交換留学生としてネパール国立パドマ・カンチャ・キャンパス・ウイメンズ・スタディ・コースに在籍。

現在は、「ネパールの男児選好」という研究テーマで女兒の選択的中絶や育児放棄の要因を解明することに取り組んでいます。

【主な業績】Nepal's traditional development and Son preference (Nepal Sociological Journal, 2025)、『国際社会学』有斐閣(分担執筆、2023年)、『戦後日本の開発経験』明石書店(分担執筆、2023年)、『2023年アジア動向年報』IDE-JETROアジア経済研究所(分担執筆、2023年)、『変容するアジアの家族—シンガポール、台湾、ネパール、スリランカの現場から—』明石書店(共編著、2022年)、『グローバル現代社会論』文真堂(分担執筆、2018年)、『公正な社会とは—教育、ジェンダー、エスニシティの視点から—』人文書院(分担執筆、2012年)など。

【担当科目】

国際社会学A・B、国際協力論、NPO論、社会調査実習Ⅰ・Ⅱなど



※ ()内の都道府県名は出身高校の所在地を示しています。

●ジェンダーについて学び、議論し、考察の質を高める



坂無ゼミでは、現在『リサーチのはじめかた——「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』（トーマス・S・マラニー、クリストファー・レア、2023、筑摩書房）を読んでいます。研究の初期段階に注目した本で、

それぞれの研究の問いを見つける方法や、研究を始めるうえで役立つ様々な技術や心構えを学ぶことができます。各章の担当者を決めて要約し、レジュメを作成して発表を行い、議論を行っています。また、四回生の先輩方の卒業論文に向けた中間発表と議論に参加させていただく機会では、今後に繋がる経験を積み重ねられていると感じています。議論では、疑問に思った点や理解できなかった点について、様々な意見を交換し、新たな知見を得られたり、視野を広くできたりする有意義な時間となっています。

坂無先生は、議論の中で行き詰っている際に、発表者に疑問を投げかけたり提案及びアドバイスを下さったりして、議論をより深めつつ、各々の議題に真剣に向き合ってくださっています。坂無先生の専門はジェンダーと社会統計学で、先輩方の多くはジェンダーを取り扱っています。私もジェンダーについて研究したいと考えているため、この坂無ゼミの場を通して自分の研究テーマを考えていきたいと思えます。ジェンダーや社会統計学はもちろんのこと、その他の分野に興味がある方も、是非坂無ゼミと一緒に学びましょう！

公共社会学研究Ⅰ(坂無ゼミ)
Y.I. (佐賀県)

●都市問題と移民問題、日中関係などについて考える



陸ゼミでは、多文化共生の視点から移民に関して考えたり、都市社会学の視点からまちづくりやコミュニティに関して考えたりして、現代社会が抱えている課題や現状について深く学びます。

3年生では皆の関心に合わせた書籍を一冊選んで輪読を行い、章ごとに担当者を分け、内容をレジュメにまとめて発表をします。その中で、疑問点や意見を交換して陸先生やゼミ生と議論を行う時間がありますが、一人一人へのフィードバックが丁寧であることから、発言しやすい雰囲気や自由で意見を述べることができたり、陸先生や他のゼミ生の実体験を踏まえた意見を聞くことができたり、新しい考え方を知ることができたりして、新たな知見を得ることができます。

陸先生は元々中国からの留学生として来日され、現在では日本で研究が続けられています。そのため、日中関係や移民などの話題に関しては、より多様な視点からの意見を伺うことができます。また、陸先生の研究分野は国際的なものから地域的なものまで幅広いことが特徴です。国際関係や地域関係に興味がある方はもちろん、多様な知見を得る幅広い分野について学びを深めたい方は、ぜひ陸ゼミと一緒に学んでいきましょう。

公共社会学研究Ⅰ(陸ゼミ)
S.Y. (福岡県)



坂無 淳
Jun Sakanashi

【専門】社会学・ジェンダー研究・社会調査法

【略歴&研究内容】

北海道大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。山形大学男女共同参画推進室、立教大学コミュニティ福祉学部助教を経て、2017年4月に本学着任。

私の専門は社会学とジェンダー研究です。主に社会調査でデータを集め分析することで、社会的に何が明らか

になり、また、どのようにジェンダー平等を達成できるかを研究しています。そのスキルの一つである統計分析は、無味乾燥で苦手意識のある方もいらっしゃるかもしれません。しかし、そのデータの背後には回答してくれた人の生活があります。データをとる、仮説を検証する、新しい発見が生まれる、データをもとに他の人と議論することは楽しく、また今後、色々な場面で役立つはずで、皆さんと一緒に勉強できるのを楽しみにしています。

【主な業績】『社会はこうやって変える！——コミュニティ・オーガナイズング入門』（分担翻訳、Matthew Bolton, How to Resist: Turn Protest to Power, 法律文化社、2020年）。「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論』65(4): 592-610, 2015年ほか

【担当科目】統計学、データ分析の基礎、社会統計学Ⅰ・Ⅱ、ジェンダー論、社会調査実習Ⅰ・Ⅱなど



陸 麗君
Lu Lijun

【専門】都市社会学・エスニシティ研究・中国の地域研究・中国語教育法研究

【略歴&研究内容】

一橋大学社会学研究科博士課程修了(博士(社会学))。農林水産省農業総合研究所(現農林水産政策研究所)特別研究員、(中国)華東理工大学社会与公共管理学院准教授を経て2019年4月から本学に着任。

これまでグローバル化のなかの都市コミュニティに焦点をあてた研究を進めてきた。現在は主に日本における華僑・華人の起業とコミュニティ、中国の「農民工」の国内移動と都市コミュニティ問題、日中コミュニティの比較に関する調査研究に取り組んでいる。

【主な業績】『華僑華人の新中間層持ち家居住と地域社会——大阪市と川口市・蕨市における華僑華人の集住コミュニティ調査を通して』『福岡県立大学人間社会学部紀要』33巻(1): 85-94, 2024、「中国長江デルタ地域都市圏の発展と域内の一体化に関する考察」『福岡県立大学人間社会学部紀要』32巻(1): 73-84, 2023、『さまよえる大都市・大阪——「都心回帰」とコミュニティ』東信堂(分担執筆、2019)、『中国の「村」を問い直す』明石書店(分担執筆、2019)など。

【担当科目】都市社会学、中国の社会と文化、中国語など



ゼミ&教員紹介

●都市問題、社会問題へのアプローチの仕方を学ぶ



堤ゼミでは、社会への問題意識を大切にし、社会問題について学術的に捉える力を養うことを目指しています。

堤先生は長年、ホームレス問題に関するさまざまな社会調査に関わってこ

れているので、ゼミでは社会問題への多種多様なアプローチの仕方を学ぶことができます。

3年前期では、ゼミ生全員で共通の書籍を読む「輪読」を行います。今年度は『シングルマザーの貧困』という新書を読んでいます。文献を自身の関心に基づいて担当する章を決め、内容をまとめたレジメを作成し、発表と意見交換をします。このプロセスを通じて、論理的思考力が身につくだけでなく、ゼミ生との意見交換によって新たな知見を得たり、理解を深めたりすることができます。

堤ゼミは、テーマの自由度が高く、自らが関心のあるテーマについて主体的に研究し、丁寧な指導を受けられる環境が整っています。社会に対するまなざしを育み、共に学び合う堤ゼミで、ぜひ一緒に成長しましょう。

公共社会学研究Ⅰ（堤ゼミ）
T.O.（福岡県）

●自らの問題関心を社会学を通して学ぶ



藤澤ゼミでは、自分の興味のある分野でのテーマを設定し研究を進めています。最初にゼミ全体で目標を設定し、その目標に向けてどのような活動を行うかを全員で話し合い決めていきます。大学内の図書館で自分の興味のあることに関連した本を探し、読み込み、本

から得た知見や感じたことをゼミで発表し、他のゼミ生や先生と意見を交わし理解を深めていきます。このような過程を経て、自身の研究テーマを決定します。テーマが決まったあとは、自分のテーマについて調べたことや考えたこと、さらに深堀りたいことなどを発表し、それに対して先生がコメントをしてくれるだけでなく、関連する概念や文献、研究方法などを紹介してくれます。ゼミ生同士の意見交流も積極的に行われるため、視野が広がり、自分では気づかなかった視点に気づくことができます。少人数体制であるため、先生がひとりひとりと丁寧に向き合い、それぞれの進み具合などの個別にあつた指導や助言をいただける点が魅力的です。

発表や意見交換の中で、これまでの授業で学んだ用語や内容を活用・再確認する場面も多く、知識の再整理や学び直しにもつながります。私は現在「そろばん」をテーマに卒業論文を作成しています。最初は難しいテーマを設定しようとしていましたが、先生やゼミ生の助言により、このテーマに決定しました。自分の興味のあることをテーマに設定することで、自然と探求する意欲が高まるだけでなく、調査や考察も深まるように感じます。

公共社会学研究Ⅰ（藤澤ゼミ） Y.N.（広島県）



堤 圭史郎

Keishiro Tsutsumi

【専門】社会問題と逸脱の社会学・都市社会学

【略歴&研究内容】

大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。博士(文学)。2010年より本学に勤務。これまでホームレス問題に関する研究、生活困窮者支援モデルに関する研究などを行ってきました。現在は、生活困窮者自立支援制度に基づく「排除と差別」に抗する地域社会づくり、福岡市や北九州市に

おけるコミュニティ状況把握、農村部における持続可能な地域生活文化圏のありかたについて調査研究を進めています。

【主な業績】「小規模非合併農協による地域生活文化圏の形成と課題——主に下郷農業協同組合の歴史と実践に基づいて」『地方社会の危機に抗する〈地域生活文化圏〉の形成と展開』東信堂(分担執筆、2024年)、「Process of Social Acceptance of Facilities for the Poor,」'Social Theory and Dynamics' 5:70-86(単著、2024年)、「The Bottom Worker in East Asia: Composition and Transformation Under Neoliberal Globalization,」Brill, Netherlands(分担執筆、2023年)、『生活困窮者への伴走型支援——経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店(共著、2014年)、「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究——福岡県立大学人間社会学部公共社会学科の社会調査実習」『社会と調査』12:85-89(単著、2014年)など。

【担当科目】社会学A・B、社会病理学、社会変動と社会問題、社会調査実習Ⅰ・Ⅱなど



藤澤 健一

Kenichi Fujisawa

【専門】教育学・教育制度学・教育政策学

【略歴&研究内容】

筑波大学大学院博士課程教育学研究科。2000年より本学に勤務。教職課程のうち基礎的な事項にかかわる講義を中心に担当。研究分野は、教育の管理運営にかかわる歴史分析です。とくに小学校を中心とした教員の組織、団体、制度・政策に関する研究に取り組んでいます。教師という職業の本質とはなにか、それは歴史的にどのようにあつたのか、また、理念としてどのようにあるべきかを考えています。

【主な業績】(共著)教育制度研究会編『要説 教育制度』新訂第三版、学術図書出版社、2011年、(単著)『近代沖縄教育史の視角——問題史的再構成の試み』社会評論社、2000年、(編著)『沖縄の教師像—数量・組織・個体の近代史』榕樹書林、2014年、『移行する沖縄の教員世界—戦時体制から米軍占領下へ』不二出版、2016年。

【担当科目】教育学概論B、教師論、教職実践演習、教育実習事前事後指導など



●興味のある分野の課題解決について学ぶ



石崎ゼミでは各自が設定したテーマについて、毎週作成した小レポートをもとに進みます。設定するテーマには、「情報教育」「AI」「物流」など学生ごとに様々です。そのため、各自のテーマに沿った適切な資料探しが求められます。小レポート

について、学生同士の質問時間と石崎先生からの質問やアドバイスを頂ける時間があり、自分では浮かばなかった疑問や資料探しのヒントが見つかります。

私は現在、「ぬいぐるみ」について何か考察できないか模索しており、思うような先行研究が非常に少ないです。そのような状況でも、考察の材料になるような視点や考え方についての意見を頂けることは非常にありがたいと思っています。

緊張する場面もありますが、他のゼミと比べても早く、自分の興味のあるテーマについて深めることができることも石崎ゼミの魅力であると感じます。興味のある分野がたくさんある人、まだ見つけていない人、統計の手法を使ってみたい人、ぜひ、研究室訪問で訪れてみてください。

公共社会学研究Ⅰ（石崎ゼミ）
M.F. (山口県)

●家族社会学について学ぶ



黒川ゼミでは家族社会学を専門とし、結婚や家族の形、母親規範などについて考え、家族社会的視点から現代社会を捉えながら議論しています。今年のゼミでは、「21世紀家族へ」「母親となって後悔してる」「結婚の社会学」という3つの文

献を自分たちで選び、章ごとに担当者を決めて発表します。報告者は、みんなで議論ができるテーマを提示し、ゼミ生と先生でそのテーマに関してディスカッションしています。

黒川ゼミでは「毎回『全員』が自分の意見を発表する」というルールがあります。最初は意見を言うのに戸惑いを感じるかもしれませんが、私たちのゼミでは何度も意見を出し合いながら、お互いに議論を深めています。また議論の中で、言いたいことがまとまらなかったり、内容を理解することが難しいときもあります。そんなときに黒川先生が的確なアドバイスやヒントを出してくれるので、ゼミが終わるときには全員が内容を理解することができています。家族という身近なテーマを通して、社会のことを自分事として考えることができると感じています。家族社会学に興味がある方はもちろん、まだ興味関心が定まっていない方も、黒川ゼミで一緒に楽しく「家族」を学んでみませんか？

公共社会学研究Ⅰ（黒川ゼミ）
K.S. (福岡県)



石崎龍二
Ryuji Ishizaki

【専門】統計科学、数理物理・物性基礎論

【略歴&研究内容】

九州大学大学院理学研究科博士課程修了(博士(理学))。

自然や社会の現象を数理的に理解するためのモデル構築とその解析や新しいデータ解析法の開発などを行っています。最近是非定常時系列に対するパターン・エントロピー時系列による解析と応用に取り組んでいます。

抽象的な数理モデルの計算が多く、何を目的にして研究をしているのかわかりづらいと思います。対象とする現象の背景にある規則性・法則性の発見を目指しています。

講義・演習を通して、数学、情報処理、統計科学の面白さを伝えていきたいと考えています。

【主な業績】1.Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, Kazuhiro Fukushima, "Time series analysis and stochastic processes modeling using explosive eruption data from Japan's Sakurajima volcano", Physica A, Vol. 659, 130313, 2025.

2.Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, "Short-term Kullback-Leibler divergence analysis to extract unstable periods in financial time series", Evolutionary and Institutional Economics Review, 21(2), p.227-236, 2024.

3.駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』, 朝倉書店, 1998年.

【担当科目】情報科学、情報数学、プログラミング概論、データ処理とデータ解析Ⅰ・Ⅱなど



黒川すみれ
Sumire Kurokawa

【専門】家族社会学、計量社会学、労働社会学

【略歴&研究内容】

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程修了(博士(社会科学))。東京大学社会科学研究所特任助教を経て、2022年4月より本学に着任。

家族経歴と職業経歴に着目したライフコース研究を行っています。統計データを利用して、人々がどのような人生を歩んできたのかを「家族」と「職業」の2要素から記述し、人生のパターン(ライフコース)の変化と内容を分析しています。マクロな社会変動とミクロな個人生活史とを関連づける社会的な視点を重視しながら、現代社会の家族と労働について考える研究です。

近年は、夫婦の職業経歴と家族行動の関連、パワーカップルのキャリア形成についての調査研究に取り組んでいます。

【主な業績】『入門・福祉社会学—現代的課題との関わりで』学文社(分担執筆、2024年)、『検証・コロナ期日本の働き方—意識・行動変化と雇用政策の課題』慶應義塾大学出版会(分担執筆、2023年)、「職場や働き方をめぐる個別労働紛争の男女比較分析」『超高齢社会における紛争経験と司法政策』(2021年)など

【担当科目】

家族社会学A・B、公共性の社会学、福祉社会学、社会調査実習Ⅰ・Ⅱ、社会学の分析法Bなど

教職課程・教育実習

取得可能な教育職員免許状

- 中学校一種免許状（社会）
- 高等学校一種免許状（公民）
- 高等学校一種免許状（情報）

福岡県立大学人間社会学部公共社会学科では三種類の教員免許状を取得することができます。中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民）、高等学校教諭一種免許状（情報）です。

公共社会学科では、新たな公共性、地域社会、国際共生の視点から、コミュニケーション能力や社会調査の分析力、問題解決への企画・提案力、さらにICTのスキルを身に付けます。こうした資質は、同時に現在の学校教育において、教員として必要な資質にも応用可能です。教職課程では教育学や心理学、さらに各教科にかかわる専門的事項などを学ぶことで、教員としての教育実践力の修得を目指します。

公共社会学科における学びを活かし、自己の成長につなげるとともに、教職課程を通じ、教員としての自覚と使命感、資質を体得してください。



高校「情報」の教職課程は2022年度（令和4年度）に新設され2025年度に完成年度を迎えました。

公共社会学科の専門教育科目は、「基幹科目」「現代社会課題」「地域社会ネットワーク」「アジア国際共生」「社会調査・情報処理」「関連科目」から構成されています。

高校情報の教職課程は、学科の学位プログラム（学士（社会学））の体系的に配慮し、「社会調査・情報処理」科目群の専門性をベースに教育課程を編成、認可されました。

高等学校の教科「情報」では、令和4年度入学者から「情報」が必修となっており、情報社会の問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育むことが教育目標となっています。本学の情報の教職課程では、こうした力をさらに伸ばすために、「データ分析の基礎」「プログラミング概論」「マルチメディア論」「地理情報システム論」「情報ネットワーク演習」「データベース論」「情報ネットワーク論」等の豊富な科目群を開設しています。

また、高等学校の選択科目の教科「情報II」では、「情報I」を学んだ上で、情報や情報技術を創造的に活用する力を育むことが教育目標となっています。本学の情報の教職課程では、こうした力を



ゼミ&教員紹介



田尾 真一
Shinichi Tao

【専門】財政学、地方財政論

【略歴&研究内容】

2015年、京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了（博士（経済学））。徳山大学（現・周南公立大学）での10年間の勤務を経て、2025年より本学に着任。

私の研究分野は財政学・地方財政論です。特に財政調整制度に関心があり、各自治体の財政需要に見合った財源をいかに保障すべきか、政府間財政移転の望ましい制度のあり方について、他国（特にドイツ）の制度などを参考にしながら研究しています。

自治体財政の現状を把握することで、各自治体の抱える財政問題・社会問題の明確化や、今後の持続可能な財政運営のあり方を模索することについても関心があります。

講義では、経済学系の科目を中心に担当しています。経済学・財政学の視点から、社会を視る眼を共に養っていきましょう。

【主な業績】「ドイツにおける州政府の財政規律—安定化評議会による予算監視と財政再建—」『日本地方財政学会研究叢書』(22), pp.60-81(単著、2015年)、『日本財政の現代史II バブルとその崩壊1986~2000年』有斐閣(共著、第8章「集権と分権の狭間」(pp.203-224)を執筆、2014年)、『周南市民行財政白書2023—市民主体のまちづくりの前進のために—』山口県地方自治研究所(共著、2023年)、「山口県和木町における議会町づくり懇談会の取り組み」『周南公立大学論叢』(6), pp.27-32(単著、2024年)

【担当科目】経済学、公共経済学、仕事の経済学、暮らしの経済学、地域社会分析法Bなど



福本 純子
Junko Fukumoto

【専門】地域社会学・環境社会学・農村社会学

【略歴&研究内容】

早稲田大学人間科学研究科修士課程を修了（修士（人間科学））。熊本大学大学院社会文化科学教育部博士後期課程単位取得退学。下関市立大学経済学部特任教員（地域貢献担当）等を経て、2021年に本学に着任。

農山村地域へのフィールドワークを中心に、地域住民の方々にお話を聞きながら研究を進めています。主な研究テーマは以下の2つです。1つは、再生可能エネルギーとしての小水力発電です。農山村にある小水力発電について、地域での位置や役割を分析し、持続可能な地域づくりの方法を探求しています。もう1つは、過疎農山村の地域課題です。特に農業に関する課題（耕作放棄地、獣害、担い手問題など）に焦点をあてて分析し、これからの日本の農山村のあり方について考えています。

【主な業績】『入門・地域社会学』学文社(分担執筆、2024年)、『入門・福祉社会学』学文社(分担執筆、2023年)、『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』ミネルヴァ書房(分担執筆、2018年)、「生産基盤縮小にみる集落の自律的再編—広島県庄原市の中山間地域における稲作の縮小を事例として」『熊本大学社会文化研究』17(2019年)など

【担当科目】

地域社会学、環境と災害の社会学、社会調査の設計、社会調査実習I・II、地域社会分析法Aなど

さらに伸ばすために、「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」「データ処理とデータ解析Ⅰ・Ⅱ」等のコンピュータ・情報処理の科目群を豊富に開設しています。

さらに、本学では、どの学部の学生も学べる全学横断型の教育プログラムとして、統計・情報の知識を保健福祉分野での課題解決に活用できる力を養成するデータサイエンス・プログラムが開設されています。「データベース論」「情報ネットワーク論」「Webデザイン演習」「プログラミング演習」「情報検索システム論」「個人情報法制」等のデータサイエンス・プログラムの科目は、学科の専門教育の「関連科目」群に配置され、高等学校の情報系科目を担当するのに必要な内容をより深く学べるように編成されています。



● 教職課程で実践的な学びを重ねました

教職課程では、少人数制で充実したサポートのもと、教育分野の基礎や授業を实践する上で必要な知識、技能を学ぶことができます。1・2年次では教育学の基礎を学び、3年次では実際に50分間の模擬授業を行いました。準備段階での学習指導案作成や、他者との意見交換による振り返りから、自分では気付かなかった良さや改善点を発見することができました。また、社会福祉施設や特別支援学校での介護等体験を通して、講義ではできない貴重な経験をしました。



3年次の学校インターンシップでは学校の教育活動に参与し、現職の先生方による、授業や生徒との関わり方に接して、実践的な学びを重ねました。私自身も、生徒から頼られ、生徒が自立していく様子を近くで見守る体験ができ、教員のやりがいや楽しさに気づきました。4年次には教育実習を行いました。社会科地理的分野「日本の諸地域」の授業を担当しました。生徒の目線に立ったわかりやすい説明の仕方をはじめ、大切なことを学びました。そして、休み時間や放課後は、生徒と話したり部活動に参加しました。その結果、生徒と多くの時間を共にして信頼関係が生まれることで、生徒が自分の声に耳を傾けてくれることにつながるのだと感じました。実習後に頂いた寄せ書きには、「先生の授業は分かりやすくて楽しかったです！」というコメントや「先生のおかげで、社会が好きになりました！」というコメントがありました。1年次からの積み重ねが実を結んだ教育実習を終えて、教員となる意志がさらに強くなりました。

公共社会学科 4年 Y.T. (福岡県)



● 高校情報免許の知識は高度情報化社会を生きる重要な力に

入学当初は、公共社会学科で情報分野の学習に取り組むことに少し戸惑いを感じていましたが、データサイエンスのカリキュラム支援や、担当の先生方の丁寧なご指導があり、3年次まで学習を進めることができました。2022年度から高等学校教諭一種免許状（情報）の取得が可能となり、教育現場を目指す学生にとっても、情報化社会に対応できる力を身につけた学生にとっても、実践的な学びの機会が広がっていると思います。



1年次では、統計学や情報処理など情報の基礎を学びながら、情報社会の根幹を支える知識を習得しました。また、データの扱い方や分析手法の基礎を学ぶことで、社会現象を客観的に捉える力を養いました。2年次には、情報ネットワークやプログラミングといった情報技術に関する知識や、社会学を通じた情報と社会の関係を学習しました。3年次では、高校情報科の教育方法やデータ分析、法制度の理解など、教育現場で求められる知識と実践力を高める学習をしています。

情報学だけでなく、社会学の視点から多面的・多角的に学ぶことができるので、情報化が急速に進展している現代社会を生き抜く力が養われると思います。情報に関する知識は、文系・理系問わず習得しておくべき内容であり、社会人になっても活用できると思います。

公共社会学科 3年 Y.U. (福岡県)

● 情報・公民・社会等、教科横断的に指導力が向上します

現代社会の情報化が進む中で、情報や情報技術の役割とその影響を理解することがますます重要になっています。また、情報に対する倫理や責任を考え、より良い情報社会を築くために積極的に参加する姿勢も求められています。

本学科では、高校の情報教員免許状が取得できるようになっており、情報に関する豊富な科目群が揃っています。さらに、情報関連資格を取得するための支援プログラムも充実しています。また、全学部の学生が履修できるデータサイエンス・プログラムにより、統計学や情報学を学び、社会の諸課題に対応する能力を高めることができます。データサイエンス・プログラムの科目は、情報教員免許状の取得に必要な教科の科目の多くをカバーしており、効率的に履修が進められるようになっています。

近年、高校では「情報」の必修化に伴い、高校情報教員免許状取得者への需要が高まっています。そのため、この資格は特に推奨されます。本学科では、中学社会、高校公民など複数の一種免許状を取得することも大きな特色です。複数の免許状を取得することで、様々な教科を担当でき、教科横断的な視点で指導計画を組み立てる力を身につけることができます。これにより、教員としての総合的な指導力が向上します。

さらに、本学科の社会学を中心とした幅広い領域にわたる関連科目を学ぶことで、情報化社会に対応できる能力を身につけることができます。

本学公共社会学科で情報教員免許や関連資格を取得し、情報化社会で活躍する力を身につけませんか。皆様のご入学をお待ちしております。



社会調査実習

日本とネパールにおける若年層の悩み、 生き方、対人関係の国際比較

社会調査実習は、10人程度のグループに分かれてそれぞれテーマを設定し、インタビューや質問紙調査の企画から実施、得られたデータの分析、報告書の作成に至るまでの過程を学生が主体となって行うアクティブ・ラーニング形式の授業です。



ネパールの学生にヒアリング

今年度は、(1)「炭鉱」の記憶の継承と表象に関する調査、(2)福岡市都心部における戦前戦後の空間変容に関する都市社会学的研究、(3)「日本とネパールにおける若年層の悩み、生き方、対人関係の国際比較」の3つのグループで調査を進めています。

「日本とネパールにおける若年層の悩み、生き方、対人関係の国際比較」をテーマとする私たちのグループでは、日本とネパールにおける若年層の悩み、生き方、対人関係を比較し、各国の特徴を明らかにするとともに経済的発展と若年層の精神疾患や精神的な不調を生起する普遍的な構造的背景を明らかにすることを目的としています。ネパールのサガール・シャルマ・カトマンズ大学教授、サラサティ・バラティ・トリバン大学講師、カトマンズ大学の学生と協働で調査をすすめています。

これまでの実習では、まずネパールの文化について各班で下調べを行い、ネパールの風土や宗教についてのインタビュー項目を作成し、Zoomを用いてネパールの学生4人と意見交換を行いました。また、近年の日本の若者についての理解を深めることを目的として、各班で分担して『「最近の大学生」の社会学』（ナカニシヤ出版）など複数の文献や論文の論点をまとめ、日本の若者とネパールの若者を比較する際の仮説を導き、質問紙調査の完成を目指しています。

ネパールの学生との意見交換ではこれまでに作成した質問や仮説を用い、ネパールの大学生の現状や価値観について知ることができました。翻訳機を使えば言語が違ってもコミュニケーションをとることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

今後は、ネパールの学生との意見交換や文献から得られた知見をもとに仮説をブラッシュアップし質問項目を完成させて、実査に臨みたいと思います。

社会調査実習（佐野クラス）
M.H.（熊本県）



ネパールの学生とのZoom画面

国際交流プログラム・交換留学

三育大学校への交換留学はこれまでの人生で最高の経験！

私は韓国の三育大学校（ソウル）に1年間、交換留学をしました。語学の習得が目的で留学を決意したので、韓国語はある程度理解できるぐらいで、韓国に行ってから本格的に学ぼうと考えていました。しかし、いざ韓国に到着して大学の事務の方と会話すると全然理解できず、自分の実力を



三育大学キャンパスにて

思い知らされました。初めの方は、お店での注文や大学での事務的なやり取りを、同じ日に大学についた日本人の留学生に頼りきりで、私はただ見ているだけしかできず、とても悔しい思いをしました。その悔しさをバネに毎日学校の講義以外でも韓国語の勉強をし、特に聞き取りと会話に力を入れました。そのおかげで2か月が過ぎる頃には相手の話が理解できるようになり、半年が過ぎる頃にはスムーズに会話ができるようになりました。

この留学は私にとって、初めての海外、親元から離れての寮生活など挑戦の日々でした。様々な国籍の人々との交流など、日本国内の大学に通うだけではできなかった体験もすることができました。また、新しい視点や考えを得ることができ、これまでの人生で最高の経験ができたと感じました。それを、これからの人生にも活かしていきたいと思います。

公共社会学科3年 A.Y.（福岡県）

南京師範大学への留学が大きな成長のきっかけに！

中国・南京師範大学への留学を通して、語学力の向上はもちろん、世界の文化や社会への関心が大きく広がりました。最初は「パスポート」の中国語すら分からず、心細くなることもありましたが、しかし1年間意欲的に中国語に触れたことで、今ではテレビや映画を楽に楽しめるほどになりました。



南京師範大学キャンパスにて

古都・南京の美しい風景に囲まれて授業を受け、様々な国の学生と交流する中で、他国の文化や価値観を知ることもしばしば、日本の文化や価値観を再認識することもありました。また休みのタイミングで、時には友人と、時にはひとりで中国各地に旅行に行き、その地で異なる歴史や文化や食に触れました。計画を立てたり値下げ交渉を楽しむ中で、語学力に加えて、行動力や判断力、自立心も育ったと思います。出会った友人達とは今でも連絡を取り合い、いつかお互いの母国を訪ねたいねと話しています。留学ビザが解禁された直後の留学で不安もありましたが、先生方や事務の方々が留学に挑む一人一人を丁寧に支えてくださり、安心して学ぶことができました。この留学は、自分を大きく成長させてくれた貴重な経験であり、支えてくださったすべての方に感謝しています。

公共社会学科3年 W.S.（福岡県）

キャリア支援プログラム

交換留学協定校

中国



南京師範大学（江蘇省南京市）

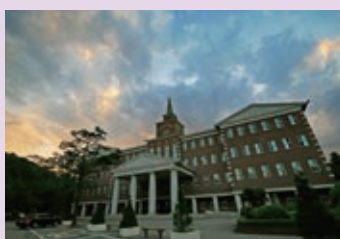


珠海科技学院（広東省珠海市）

韓国



大邱韓醫大学校（大邱市）



三育大学校（ソウル市）



慶徳大学校（慶州市）

公共社会学科では専門教育と連動したキャリア支援プログラムを設けています。本学科で学んだ公共性や地域社会・国際共生に関する専門的な知識、リサーチや分析能力を、各自のキャリア形成を展望しながら応用し、活用するためのプログラムです。

学生はそれぞれの進路希望に応じて自由にプログラムを選択できます。

なお、大学内のキャリアサポートセンターと連携し、組織的に就職情報の収集を行い、企業インターンシップの促進など学生のキャリア支援を強化します。

1 社会調査士資格取得支援プログラム

社会調査とは社会に関する問題関心のもと、実際にデータを集め分析することをさします。例えばある地域の課題を解決したい場合に、その地域に暮らしている人々にインタビューやアンケート調査をすることが考えられます。行政が計画をたてる際にも、このような調査から住民が本当に必要としているニーズを把握し、その上で課題解決の実現方法を選定する必要があります。社会調査に必要な技術と経験を持つことを示す資格が、「社会調査士」という資格です（一般社団法人社会調査協会の「社会調査士資格取得ガイドサイト」のウェブページもご覧ください）。公共社会学科には、実際に社会調査を行う「社会調査実習」のほか、調査や分析に関する実践的な授業が多くあり、それらの社会調査士の資格科目は全て学科カリキュラムに含まれます。また、授業のほかにも、公共社会学科では社会調査の動向に関する情報提供や社会調査士資格申請の手続きを行っています。

2 教職免許取得支援プログラム

公共社会学科では高等学校教諭一種免許状「公民」「情報」と中学校教諭一種免許状「社会」が取得できます。本学科では、現代社会の諸問題の分析と高度福祉社会構築への実践的提案力を活かして子どもの教育に独自の貢献をすることができます。

カリキュラムとは別に、職業としての教職という側面から関連する情報を提供し、互いに意欲を高めあって進路選択に活かせるよう支援していきます。次の2項目を目標にします。

- (1) 教職の現状（学校現場、教職の展望等）について認識を深める。
- (2) 教員採用試験の現状を知り受験準備のための意欲を高める。

3 情報処理関係資格取得支援プログラム

上級情報処理士

本学の所定の単位を修得すれば、上級情報処理士の資格を取得することができます。

上級情報処理士は、全国大学実務教育協会が認定する資格です。次の4点が教育目標となります。

- (1) 高度な情報処理技術の応用を身につける。
- (2) ビジネスで活用されるソフトウェア技能の応用を身につける。
- (3) プレゼンテーション能力の応用を身につける。
- (4) オフィスの組織や情報の流れを活用する技能を身につける。

上級情報処理士の資格を取得することは、以上のコンピュータを使いこなせる技術が身についたことの証になります。

マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS)

本学は、隣接するたがわ情報センターと連携し、MOS資格取得講座を開講しています。MOSはエクセルやワードなどのマイクロソフトオフィス製品の操作スキルを証明できる資格です。マイクロソフトオフィスは、現在、多くの職場で活用されている代表的なアプリケーションソフトです。

この認定資格は、企業での認知度が高いため、就職活動前に取得しておきたい資格です。

キャリア支援プログラム

4 公務員受験支援プログラム

公共社会学科では、公共性の社会学やコミュニティ論、地方自治論など、地域社会や地方自治について学ぶさまざまな専門科目を開設しており、学科の目標や学習内容から、特に地方公務員はキャリア形成を考える際の選択肢の一つだと言えます。

全学的には、2・3年生を主な対象とした教養試験対策講座が開設されており、本学科の公務員志望者にもこの講座を受講するように勧めています。また、地方自治体の現場でのインターンシップを経験する学生も多く見られます。

学科独自のプログラムとしては、公務員志望者向けの履修モデルを提示したり、近隣の自治体職員の方や官公庁に就職した学科のOB・OGを招いて、業務内容や試験対策について何うセミナーを実施しています。

学科で開設している科目においても、自治体研究の手法を取り上げるものや、実際にフィールドに出て地域の課題を明らかにする実習科目などもあり、これらを受講することで二次試験以後の対策にもつながるように指導しています。



「先輩に聞いてみよう」

5 ビジネス・スキル修得支援プログラム

本学では、全学のキャリアサポートセンターを中心に、進路・就職ガイダンスや業界研究のセミナー、合同説明会へのバスツアーなどが開催されており、個別相談や面接対策も実施されています。また、キャリア教育の一環として、授業として位置づけられる1年次でのインターンシップなども開講されています。公共社会学科では、これらの取組みを補完する形でセミナーの開催や相談への対応を実施しており、自己分析、履歴書やエントリーシートの作成、業界研究など、就職活動に必要なスキルを修得できるように支援を進めています。

ここまでに掲げた教職や情報関連、公務員試験等の4つのプログラムのなかでも、上記のスキルを修得できるように支援していますが、それに加えて、民間企業向けの就職活動については、4年生の内定取得者や卒業生などから体験談等を聞くセミナーなども開催しています。

活躍する卒業生

島根県警察 K.Y. (2022年卒)

私は地元島根県の警察事務職員として採用され、現在は警察署の会計課員として日々業務を行っています。私は幼いころから警察=かっこいいと憧れがあり、その組織の事務はどんな仕事をしているのだろうかと思ひ、今の職を目指しました。警察事務の業務は、職員の給与支給・福利厚生、物品の購入・管理、落とし物業務など多岐にわたり、警察官とともに地域の安全を守る警察行政を担っています。現在私は主に出張等に伴う旅費の支給や契約関係の業務に従事しています。日々学ぶことが多いですが、市民の方や職員の役に立っていると実感できることが仕事を上での活力となっています。

公共社会学科では、国内外の地域社会の課題について社会学や情報学など多方面から学び、地域の課題や人について考える基礎が学べたと感じています。在学中に地域について考えられたことは、地域や市民の安全・安心を守る警察職員としての仕事につながっていると思います。

警察職員は、人事異動で勤務場所も担当する業務も変わりますが、そのたびに町や人との新鮮な出会いや学びがあります。仕事を通して、市民の方々と直接関わり合いを持つ中で、大学で学んだことを生かしながら、自分自身を高めることができる職業として今後も仕事を行っていきたくです。



警察署内にて

糸田町立糸田中学校 K.I. (2022年卒)

私は1年間の講師経験を積み、田川郡糸田町にある糸田中学校で社会科の教員として働いています。今年度は中学1年生の担任として、社会科の授業を受け持ち、慌ただしくも充実した日々を過ごしています。授業、学級経営、生徒指導など、初めてで上手くいかないことや多様な生徒たちの対応に苦勞していますが、子ども達と楽しく関わり合えることや、子ども達の成長を近くで見え一緒に感動できることなど、多くのやりがいを感じて頑張ることができています。

福岡県立大学の教職課程は人数が多くなく、同じ仲間たちとの仲を深めることができ、切磋琢磨できる関係を築くことができました。また「不登校引きこもりサポートセンター」をはじめ、多くの教育や子どもに関するボランティア活動など、身近に学ぶことができる環境が整っており、そこで得た経験は今でも役立っています。最初は「人前に立って話せるのだろうか」など多くの不安があり、教員になる自信もあまりなかったのですが、挑戦したことで、今の自分があります。皆さんもぜひ自由な大学4年間で色々なことに挑戦し、やりがいを見つめられるような有意義な学生生活を送って下さい。



社会科の授業中

活躍する卒業生

博多運輸株式会社 通運部 M.M. (2024年卒)

私は現在、福岡を中心とし、多様な物流サービスを提供する博多運輸株式会社で働いています。主に、鉄道貨物を扱う通運部で福岡から全国へ届ける貨物の発送業務を担当しています。具体的には、お客様からのオーダーを受け、見積もりの作成や発送ルートの手配、貨物トラブルの対応等を行なっています。

鉄道貨物を扱っているということもあり、悪天候や列車障害によって遅延も発生しやすいです。働いている福岡のみならず、全国に届けられる貨物の状況を把握することは難しくもあり、また広範囲に渡る物流を支えているというやりがいもある業務だと感じています。

学生時代には、特に船員の人間関係や働き方に興味を持ち、実際に船に乗って現地の方々にお話を伺うなど、目で見て肌で感じる学びを大切にしていました。その後、学会で論文を発表することも出来ました。研究を通して物流の大切さ、とりわけ環境負荷の少ない輸送手段に興味を持ち、私もその業界で働きたいと思うようになりました。大学での経験が今の私に繋がっています。

今後は、丁寧かつ迅速な仕事を心掛けるだけでなく、環境負荷の少ない鉄道輸送ならではの特性を活かし、お客様に最適な物流サービスを提案できるようになりたいと思っています。



通運部にて

NAAセーフティサポート株式会社 S.I. (2024年卒)

現在、成田国際空港のサポートセンターで勤務しています。ご案内や問い合わせ対応が主な業務で、お客様や事業者の方から感謝の言葉をいただくことが大きなやりがいです。対応が難しい場面もありますが、「空港を支える一員」として日々業務に真摯に取り組んでいます。

昨年度は事務方として、現場スタッフの業務量を把握するために量的調査を実施しました。大学時代の学びを実務に活かした貴重な経験であり、たとえ直接結びつかない場合でも、社会的な視点を持つことの意義を感じています。

在学中、特に印象に残っているのは卒業論文の研究です。成田空港新滑走路建設をテーマに、大学生活の集大成として、卒論指導の先生の助言やご協力を受けながら、無事に卒業論文を完成させました。この経験は、今でも自分の大きな財産となっています。

現在、成田空港は新滑走路やターミナル統合など大きな転換期を迎えています。「もっと便利に、もっと愛される空港」を目指し、今後も努力を続けていきます。

県立大は、挑戦する学生を、全力で応援してくれる大学です。ぜひ、さまざまなことに挑戦し、自分の可能性を広げてください。



成田空港にて

香川県丸亀市役所 Y.S. (2022年卒)

私は地元の香川県丸亀市役所に入庁しました。地域づくり課離島振興室に配属され、市内有人島の生活環境や移住定住促進、島の魅力発信に関する業務に従事しています。丸亀市の本島と広島は「せとうち石の島のストーリー」が日本遺産に認定されており、それらのPR活動にも携わっています。地域資源を活用した地域振興に関心があり、卒業論文も瀬戸内国際芸術祭が地域に与える影響と役割をテーマに、現地調査もしながら書いたので、離島のHPの運用やパンフレットの作成、イベントへの参加等の情報発信が、直接観光や移住への関心に繋がった時は、特にやりがいを感じます。

在学中は、社会の現状や課題、データの分析方法等幅広く学び、また、少人数体制の講義も多かったため、意見を発表する機会が多々ありました。今の仕事では、離島の生活や移住定住をめぐる課題について、多角的かつ公平な立場で考察した上で、解決策を協議していくことが大切で、大学で培った経験が活かせていると感じています。

市役所は数年毎に異動があるため、今後様々な部署を経験しますが、どの部署に配属されても、課題に対して誠実に向き合い、生まれ育った地元で貢献できる職員になりたいと思っています。



日本遺産のイベントにて

飯塚市役所 M.K. (2023年卒)

私は卒業後飯塚市役所に入庁しました。現在は生活支援課に配属され生活保護業務に従事しています。私は配属されて3年目となり、生活保護法に基づいた保護費の算出をしつつ、保護を受けられている方の訪問を行っています。訪問時は1人1人に合った支援やその人が困っていることがあれば必要な機関に繋げるといったことを意識して仕事をしています。

大学では、低所得者層、ホームレスと言った支援が必要とされる方々について学ぶことができました。現在は支援が必要とされる方が何の支援を必要としているか、その支援をどのように行うことができるかといった学んだことを実際に仕事として活かしています。

また、活かすだけでなく学んだことの再確認のように「あの時学んだことは本当だったんだ」と当たり前のことですが身をもって実感することも多々ありとても楽しいです。

学生時代は就職すると今よりも責任を持つ必要があることや朝早起きしなければなど大変なんだろうなとばかり考えていましたが、実際は辛いことやきついことだけではなく、楽しいと思うことも沢山あります！

仕事を楽しむためにも大学生活の中で沢山学んで遊んで様々な経験をしてほしいと思います。その中で皆さんもぜひ飯塚市に遊びに来て下さい！



飯塚市役所にて



FUKUOKA PREFECTURAL
UNIVERSITY

PUBLIC SOCIOLOGY



福岡県立大学人間社会学部 公共社会学科
〒825-8585 福岡県田川市大字伊田4395 Tel:0947-42-2118 Fax:0947-42-6171
公共社会学科ホームページ <http://www.fukuoka-pu.ac.jp/academics/human/sociology/>

